

【レポート】

西ノ島町職員組合では、ボランティア活動として海岸清掃や島の子どもとの交流を行っています。単組としては離職率の高さが課題になっていますが、若い組合員に、隠岐西ノ島の雄大な自然を感じながら行う海岸清掃や島の子どもとのふれあいの機会を通して、島で働くことの喜びややりがいを感じてほしいと思い、こうした取り組みを行っていますので、ご紹介いたします。

西ノ島町職員組合ボランティア活動について

— 西ノ島の自然と子どもとのふれあい —

島根県本部／西ノ島町職員組合

1. はじめに

西ノ島町は日本海に浮かぶ隠岐諸島の西ノ島にあり人口約2,500人の小さな島です。西ノ島の西海岸一帯は、国賀海岸をはじめとした隠岐を代表する景勝地があり、日本海の激しい海食作用を受けて大断崖・奇岩がそそり立ち、圧倒的な造形美を有しています。

地域の実状としては高齢化率が45%を超えており、地域の医療、福祉の充実はもちろんですが、役場として町の公共サービスを担う責任は年々重くなっており、組合員も業務にやりがいを感じるとともに負担も大きいのしかかっている状況にあります。

新入職員は、Iターンの方も多くなり、島の環境に馴染めないことや、商業施設の少なさ、結婚問題などからわずか数年で離職することも珍しくなく、人と人との関わりの大切さをあらためて感じているところです。島のことを知る、地域の人を知る、職場の仲間を知ることで、島で働くことの意義を感じてもらいたいと考えています。そのためにも職員組合として組合員同士をどうやってつないでいくか、ということを真剣に考えていく必要があります。

2. 海岸清掃ボランティア活動について

これまで西ノ島町職員組合では、青年部を中心に海岸清掃ボランティア活動に取り組んでいます。主に観光シーズンを前に観光協会主催の海岸の清掃に地域の人たちと一緒に参加しています。島根県屈指の景勝地である国賀海岸の素晴らしい景色のなかで仲間とともに、海岸清掃に取り組むことで、島の自然を感じ、仲間とともに働くことの大切さを感じてもらいたいと考えています。毎年、新入職員や若手の職員に声をかけ、ベテラン職員も交わりながら多くの職員が参加しています。特にIターンの職員はあらためて島の自然の美しさに目を輝かせています。また、この機会に知り合った地域の人や職員同士で新たな交流が生まれ、スポーツや色々な活動に誘われることもあり、島での楽しみを知るきっかけにもなっています。しかし、コロナ禍の間では、海岸清掃の中止などもあったことから年々参加人数が減少していくという問題も起きていました。



3. 子どもたちとのふれあいについて

新型コロナの規制が緩和されていくとともに組合の中でも海岸清掃活動など地域との交流に対する気運が高まってきました。組合員の声に応え、2022年はクリスマス時期に庁舎をイルミネーションで飾り付けるイベントを企画したところ、親子連れで参加してくれる組合員も多く、若い組合員と一緒に飾りつけを楽しんでくれました。がんばってくれた子どもたちには職員組合からお菓子をプレゼントしました。島の中では大きな建物の役場をイルミネーションで飾り付けたことやお菓子のプレゼントをもらったことで、子どもたちも充実した様子でした。2023年にも同様のイベントを行い、たくさん子どもたちに参加してもらいました。このイベントを恒例行事としていくことで、組合員と子どもたちの期待感を持たせることができますと思います。

2024年には、新たな試みとして、恒例の海岸清掃に親子参加での企画をしてみました。保育園の保護者から親子で海岸清掃をしてみたい、との声を組合員が拾い企画したものです。この企画では、組合員の親子だけでなく、一般の方の親子の参加もあり、組合と地域の子育て世代との交流の機会にもなりました。こちらの企画でも職員組合から子どもたちにプレゼントを用意しました。漂着物だらけだった海岸がきれいになったことや子どもと大人と一緒にがんばったことで、子どもも大人も充実感と達成感を得たように思います。

子どもや子育て世代の地域の人々とのふれあいや交流を通して、島の子育てに関わり、行政の職員としてのやりがいを見出し、島で生きるということを実感する機会になったと思っています。また、子どもたちと一緒に海岸清掃に取り組むことで環境を守ることの大切さをより一層感じる事ができたと思います。





役場本庁イルミネーション飾りつけ





国賀海岸清掃

4. 今後について

コロナ禍によりレクリエーションやボランティア活動といった単組組合員同士での交流を行うことができず、停滞していた組合活動を子どもとの交流を企画することで、ボランティア活動の気運を盛り上げることができました。恒例であった海岸清掃も参加人数の減少が心配されましたが、子どもとの交流を加えることで再び多数の組合員が参加するイベントにすることができました。

依然として、毎年退職者が続いております、組合活動の意義が問われる状況が続いています。ボランティア活動の他にも、新入職員を歓迎する花見大会を行い、レクリエーション等の機会を通じて地域と組合員をむすぶ努力は続けていますが、やはり一定数の職員は様々な理由で離職していきます。島の出身の若者の人口も減少しているため、Uターンの確保が難しくなっていることから、Iターンでの人材確保、人材維持は最も重要だと考えています。離島という環境の中で不便さはありますが、島の自然や地域の人々との交流を通して島の暮らしの良さを感じてもらいたいと思っています。また子どもとのふれあいを通じて、行政の仕事が子どもの未来につながる仕事であると実感できたと思っています。今後も組合活動の中でさまざまな交流の機会をつくり、行政に携わるものとしてのやりがいを見出し、西ノ島町での定住を促して行きたいと考えています。

全国的な働き手不足により、どの単組も苦しい思いをしているところとは思いますが、他の単組の取り組みやがんばりを知ることによって西ノ島町職員組合も共にならぼう、という思いを新たに感じています。今後も組合活動を通じ、他の単組の仲間から学びながら、楽しく笑顔になれる企画を行い、やりがいのある職場づくりに取り組んでいきたいと思っています。

